

2021年03月16日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【フラストレーションの溜まる世相】

総務省の接待問題が、国会で大きく取り上げられている。

既に、何人かの総務省高官や、元総務省幹部が辞任に追い込まれているが、どうも真相の究明には至らず、すっきりしない状況に変わりが無い。

高額の飲食を伴う接待会合は、通常感覚で判断すると、単なる名刺交換や挨拶ではなく、その裏に、利害得失があるから行うのであって、いわゆる「魚心あれば水心」と勘繰られても、当然と考える。

その場で、直接、利害関係のある事柄を話題にしなくとも、「例の件、よろしくお願いたします」で、済むはずだ。

国会の追求では、その辺りが甘い。

+++++

総務省の接待問題では、既に、贈収賄容疑で、東京地検特捜部に刑事告発がなされている。

検察庁が起訴するのか、否かは、現時点では不明だが、是非にも、起訴し、司法の場で、正邪を明らかにして欲しいものだ。

+++++

コロナ禍で、緊急事態宣言が続き、多くの国民が、様々な負担に耐えて、我慢をしている。

フラストレーションの溜まる世相だ。

そういった状況下で、一部の特権階級だけが優遇されている印象が深まっている。

上述の接待問題にしても、自主返納すれば許されるのだろうか？

貧しい人が、わずかな金額の万引きをしても、警察に逮捕される。

万引きをしても、後から支払いをすれば、許されるのか？

+++++

ことは、コロナ禍の下であろうが、無かろうが、不公平感の問題なのだ。

+++++

ただし、コロナ禍は、不公平感を助長した、と考える。

様々なコロナ対策は、一部の業界や、一部の人々にとっては、大きな助けになったが、その恩恵を受けない人達は、苦しんでいるままだ。

例えば、居酒屋には、時短営業や休業に対する補償があるが、居酒屋に肉や魚、野菜を届けている人達には、補償が無い。

非正規雇用者も、多大な被害を被っていることが明らかだ。

そのような状況にもかかわらず、金融政策で、じゃぶじゃぶの資金供給を実行しているので、世界的に、株価は上昇傾向だ。

+++++

株価の上昇は、悪いことではない。

しかし、不公平な金融政策で、株価が上昇しているのならば、そのしっぺ返しは、いずれ顕在化する、と考えます。

個人的には、マーケット（市場）を信じたい、と考えるからです。

+++++

(2021年03月16日東京時間13:45記述)